

(様式第4号)

## 上田市図書館協議会 会議概要

1 審議会名	上田市図書館協議会
2 日時	令和3年5月14日(金) 午後6時30分から午後8時00分まで
3 会場	上田情報ライブラリー セミナールーム
4 出席者	佐々木会長、松井副会長、池田委員、中村委員、小林委員、斎藤委員、小林委員
5 市側出席者	浅野上田図書館長、柳原上田情報ライブラリー館長、高橋上田図書館係長、 金田上田図書館係長、和田上田情報ライブラリー次長、金子丸子図書館次長、 傳田真田図書館次長
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和3年5月26日

協 議 事 項 等

1 開 会
2 あいさつ(上田図書館長)
3 委嘱状の交付 上田図書館長から委嘱状の交付と図書館協議会についての説明をする。
4 自己紹介 図書館協議会委員自己紹介及び事務局職員自己紹介
5 会長、副会長の選出 会長には佐々木委員の推薦があり。副会長には団体推薦の委員の中から選出してほしいと意見があり。会長は佐々木委員に、副会長は団体推薦で2期目の松井委員にということでした承される。
6 会長、副会長あいさつ(佐々木会長、松井副会長)
7 協議事項 (1) 令和2年度事業実績報告及び令和3年度事業計画について ・令和2年度事業実績報告について、資料に沿って各館から概要を説明 ・以降、協議 (委 員) コロナ禍での図書館運営が本当に大変だと感じた。学校教育は、前半はほとんど教育活動ができなかった。本を借りたくても図書館が開館していないという状態だった。その中で職員がぎりぎりの線まで頑張ってもらったと思っている。また、図書館の働きが地域の色々なものを支えているが、これがストップしてしまうと大変なことになってしまう。経済がストップすると困るとよく報道されているが、もう一つの文化活動、教育活動が実は重要だと改めて感じさせられた。 (委 員) ブックスタート、セカンドブック事業は継続してほしい。中高生向けの読書サービス、啓発活動をしてほしい。駒ヶ根市はサードブック事業をしていて、本のリストを小学生に配布している。二点目に、GIGA スクール構想などで学校教育が複雑化、高度化、進化しているので、学校図書館、学校司書への支援をしてほしい。具体的には、学校図書館支援センターのようなものが公共図書館にあればいいと思う。三点目に、個人的に研究で上田図書館にレファレンスを依頼した。素晴らしい回答で、専門書をたくさん紹介してもらい感動した。資料のコレクションを継続してほしい。また、丸子図書館の放送など独自の活動も継続してほしい。 (事務局) 中高生の施策だが、第二次子ども読書活動推進計画の中でも謳われているが、各年度で取り組み内容を絞って取り組んでいきたい。学校司書への支援は、エコーの会議で話をさせていただくことはあるが、また学校教育の担当へ伝えていきたい。レファレンスは、またご利用いただきたい。 (委 員) おはなし会などのイベントを開催するかどうかの判断は、その図書館で決めるのか、全体で決まりごとはあるのか。 (事務局) コロナ禍でどうしたら事業が再開できるか、手探り状態で検討しながらやってきた。お

はなし会については、上田市内の図書館は同じ時期から再開できるように話し合いをした。その他で中止になったイベントもあり、リサイクル市や図書館まつり等、不特定多数の方が参加されるイベントや東京から講師を招く講演会等は個別に判断した。ただ、イベント以外のサービスの提供については、市内の図書館で合わせられる部分はなるべく合わせて実施してきた。

(委員) 丸子図書館で櫻井松夫氏から非常にたくさんの資料提供を受けているが、これに関連して古文書や古い図書を扱う施設として博物館や公文書館がある。一般の人は図書館と博物館、公文書館を比べると博物館、公文書館の方はハードルが高く、何を相談したらいいかわからない面がある。一番身近に感じるのが図書館で、何かあった時にすぐに相談できる。今、世代交代が進み高齢者が亡くなった時に貴重な資料を要らなくなって焼却してしまうことが現実としてある。広報紙等を使って、要らなくなった古い資料があったら図書館に相談してほしいとお知らせできれば、重要な資料を確保でき、上田の宝となると思う。

(事務局) 検討させていただく。

(委員) 大学等で研究していた先生方が亡くなって、その本を地元の図書館に寄贈したいと申し入れたが断られてしまったという事例が全国的に多くある。部分的に価値が高いものは受け取らないとか、図書館に寄贈された本が廃棄されていたという事例もある。上田市の図書館では、こういったコレクションの寄贈があった場合、どのように対応しているのか。

(事務局) あまりにも専門的なものになってしまうと市レベルの公共図書館で活用ができるかどうかを検討する。大学の先生が所蔵していた資料は、それを研究できる所で持っていた方が良いと思う。あとは上田に関係のある資料かどうかということで、実際にお断りさせていただいた事例もある。古文書の類もそれを職員が読めるかどうか、重要であるかどうかの判断をつけることができないので、博物館、公文書館と連携した形が作られると良いと思う。

(委員) 都会の業者が訪ねてきて、重要な資料をタダ同然で引き取って、それを高額な値で売るような業者がある。そういうところに資料が散失してしまう。塩尻の方では古い蚕室をどんどん壊して毎年数軒ずつなくなっている。本当に残念なことだ。専門家に手伝ってもらい、重要な資料が散失しないようにしたいと思っている。

・令和3年度事業計画について、資料に沿い各館から概要を説明

(委員) コロナ禍で学校ではオンライン授業をしており、図書館関係はインターネットの整備など各館で計画されているが、ほとんどの家庭でインターネットが利用できる環境になっている。そういうものと連携ができるのか。図書の紹介などオンラインでできるのか。

(事務局) 学校教育の現場では、GIGA スクール構想でタブレットが児童に1台ずつ配置され、学校でも専門員を配置してどういうふうに活用できるのか、どうすれば授業が円滑に進むのか、今年度は模索しながら色んな事例を集約して進めたいということで、授業への活用はこれからだと聞いている。高森町の図書館では電子ブックを英語の授業で活用するという動きもあるようだが、電子ブックの取組は県内でもそこだけとなっている。Webを活用した情報提供というのは、タブレットを活用してということではなく、一般的にホームページで配信したり、メールマガジンで配信したりということは現在もやっているのだから、それは出来ると考えている。

(委員) 上田地域は外国籍の方が多いが、図書館のパンフレットを外国語で作成したらどうか。情報ライブラリーに外国語の書籍が多くあるが継続して購入してほしい。

(事務局) 生活していく上での外国語のパンフレットは、担当課から提供を受けて配置している。外国語の図書は新年度も継続して購入していきたい。

(委員) 外国語のパンフレットは結構置いてあるが、ホームページはどうか。

(事務局) 全ての言語での対応は出来ていないと思われる。

(委員) パンフレットは用意してあっても、外国人が来なければ見れないので、図書館に来ようと思わせるようなインターネットでの情報提供が必要だ。ホームページも見て興味がわか

ような内容にしてほしい。

(事務局) 今年度、ホームページの見直しをする予定で検討している。外国籍の方が図書館を利用しているかという点、あまり利用していない状況である。市役所の担当課から図書館の情報を発信して、利用につなげることも検討したい。

(委員) 外国語を話せる人に読み聞かせをしてもらってはどうか。

(事務局) 検討させていただく。

## (2) 第二次上田市子ども読書活動推進計画の策定について

- ・資料に沿い、浅野館長から概要を説明
- ・以降、協議

(委員) これは、総まとめのものか。

(事務局) 計画をまとめて策定したものである。

(委員) 計画の基本理念で「本に親しみ自主的な読書活動を推進することで、子どもたちの豊かな心を育みます」とあるが、「本に親しみ」は子供で、「自主的な読書活動を推進することで、子どもたちの豊かな心を育みます」は大人がすることなので、主語が違うのではないか。

(事務局) 「本に親しむ」は子どもで、「自主的な読書活動」をするのも子どもで、それを推進していくのが大人であり、結果として子ども達の豊かな心を育むということ。

(委員) 「本に親しませ」なら分かるが。

(事務局) 基本理念として掲げるものなので、長文で書くことができなかったが、趣旨としては説明したとおりである。計画を策定してしまったので、すぐには変えられないが、分かりにくいということであれば計画を変更するときに見直したい。

(委員) 協議会では、この計画をベースにして討論していきたい。

## 8 その他

(委員) 図書館員のキャリア形成が全国的に課題となっている。司書の採用枠を設けていただき、プロフェッショナルを育てていただきたい。人事に関わることで難しいとは思いますが検討していただきたい。

(事務局) 司書枠の採用は、県内の市ではやっていないと思う。総合職として採用されているのでキャリア形成は難しいし、課題となっている。

## 9 閉会